

海 鼠 腸

能村 研三

公民館の思い出

市川の葛飾八幡宮境内にある、中央公民館が昨年十一月一杯で閉館し、建物が壊されることになった。「沖」にとって創刊以前から深くかわりがある建物で、残念でならない。

この建物は明治期に新潟県で建築された邸宅を、私が生まれた年の昭和二十四年に移設されたもので、葛飾八幡宮の近くにたたずむ二階建ての建物のロビーは、重厚な太い梁や柱が目を引き、優しい木材の温かみを感じられる。

「沖」創刊以前、先師登四郎は「市川馬酔木会」、その後「森の会」と改称された俳句会を、この公民館で催していた。会場の事前予約は母の担当で、幼い頃は母に連れられて出かけたことが思いだされる。小学生になつてからは、父から頼まれて句会の道具と、その日の席題が書かれた半紙を事前に句会場に届ける仕事があった。さらに中学生になつてからも市川市俳句大会の中学生の部で一位をとった時に、表彰された場所もここであった。柴田白葉女、岸風

三樓、阿部宵人といった錚々たる俳人と、公民館の庭でとった写真が今でも残っている。

「沖」が創刊されてからも、中央例会の会場はこの公民館の和室で、私が初めて「沖」の本部句会に出席したのもここで、しばらくしてから句会の採点の仕方を、河口仁志同人から教えてもらった記憶も印象深い。

その後「沖」の例会は、市民会館や文化会館で行われることもあったが、時折公民館で開催されることもあった。

近年になつてからは中央公民館の俳句講座を頼まれ、講座が終了してから、その仲間を中心にグループ句会が発足し、現在の「四季の会」や「かつしか句会」が現在でも活動を続けている。毎年秋には公民館の文化祭が行われ、メンバーの色紙短冊を展示した。

この公民館は、ある意味で「沖」の五十年の歴史を、一緒に歩んでくれた思い出の建物である。

海 鼠 腸 を 啜 り 喉 元 細 う せ り

能村 研三

小 間 切 れ に 使 ふ 時 間 や 添 水 鳴 る
秋 嶺 を 続 べ て 城 下 の 気 韻 か な
昼 月 に 吹 か れ ぎ ん な ん 落 つ る 日 よ
早 々 と 外 鍵 か け て 十 三 夜

う そ 寒 や 櫛 比 欠 け ゆ く 裏 通 り
竹 幹 の み ど り 確 か に 獵 期 来 る
鵲 猛 る 結 界 石 の 結 び 瘤

山 峡 の 杵 杉 稚 し 神 迎

ど う 見 て も 届 か ぬ 梯 子 柚 子 は 黄 に